

平成 24 年度「認知症サポーターキャラバン報告会」 in 大阪 開会 ご挨拶

本日は、大変、多くの皆さまに、北海道から沖縄まで、とりわけ近畿地方からは大勢の方にご来場いただきまして誠にありがとうございます。今回「認知症サポーターキャラバン報告会」は第 6 回目となりますが、初めて東京を離れ、大阪で開催する運びとなりました。

平素より「認知症サポーターキャラバン」事業に対しまして、ひとかたならぬご支援、ご協力を賜り、改めて厚くお礼申し上げます。

平成 17 年度に開始いたしました「認知症サポーターキャラバン」は間もなく 9 年目に入ろうとしています。現在、全国で養成された認知症サポーターは、400 万人近くを数えるにいたりました。約 310 万人とされる認知症の人の数を優に上回る認知症サポーターが全国で活躍しています。

これもひとえに認知症サポーター、キャラバン・メイトの皆さまのご尽力のお陰であり、感謝の念に堪えません。

100 歳の方から最近では幼稚園児まで、民生児童委員、老人クラブ、自治会など地域住民、実際に介護をされているご家族、生活場面で高齢者と接する機会の多い金融機関やスーパーマーケット・商店街、交通機関など地域で働く方々、学校の児童・生徒など、認知症サポーターは、背景、立場も異なれば、認知症の方との接点もさまざまです。

8 万人を超えるキャラバン・メイトの方々は、サポーター講座を開くごとに、話を聴く人の状況に思いを巡らせ、「認知症にどのような関心を持っているか」「どんなことに困っているのだろうか」と、日夜、研究を重ね、創意工夫を凝らしたいわば“オーダーメイド”の講座を開催してこられました。

認知症の正しい理解、基本的な対応の仕方を身につける「認知症サポーター養成講座」の核となる内容は全国共通のものですが、相手にあわせてどのように伝えるかといった表現方法は自ずと多種多様となり、一つひとつの講座には個性ある“顔”があります。その日々のキャラバン・メイトの地道な努力と挑戦が、“自分のできる手助けを自分で考えて実践する”認知症サポーターを日本中に誕生させ

ているといえるでしょう。

のちほど発表がございます「M ーグランプリ」には 55 件の応募をいただきましたが、どの作品もまさにキャラバン・メイトさんの日頃の研鑽の結果といえる力作ぞろいでした。

「M ーグランプリ」に輝いた「わがまちの認知症サポーター養成講座の工夫自慢」は、認知症を正しく理解し、ともに自分たちのまちで認知症の人を支え、誰もが安心して暮らせる社会をつくっていかうと、受講者一人ひとりに呼びかけるような説得力ある講座内容です。

このキャラバン・メイトの功績が、今や世界を動かしているといっても過言ではありません。

世界保健機関(WHO)が「認知症」をテーマに 2012 年に発表した報告書において、また 9 月に公表された国際アルツハイマー病協会(ADI)の 2012 年版報告書でも、認知症への偏見をなくす日本の国家的な取り組みとして「認知症サポーターキャラバン」事業が高く評価されました。

さらに英国では、日本を手本とし dementia friends と名付けた英国版・認知症サポーター制度を開始しています。

海外から評価を受けて初めて、その価値に気づく傾向が私たちにはあるようがございます。すでに 400 万人近い仲間を擁する私たちにしてみますと、認知症サポーターの存在はごくあたりまえになりつつありますが、日本国民の認知症への意識の高さは世界的に見てもきわめて優れたものです。

今こそ誇りをもってオレンジリングを身につけようではありませんか。

共同開催にあたりご協力を賜りました大阪府ならびに大阪府認知症キャラバン・メイト連絡会に感謝申し上げます。

本日、お忙しい中お集まりいただきました認知症サポーター、キャラバン・メイトの皆さま、そして自治体及び企業の職員の方々の活動にあらためて感謝申し上げますとともに、今後なお一層のご活躍に期待いたしております。

平成 25 年 3 月 2 日

全国キャラバン・メイト連絡協議会